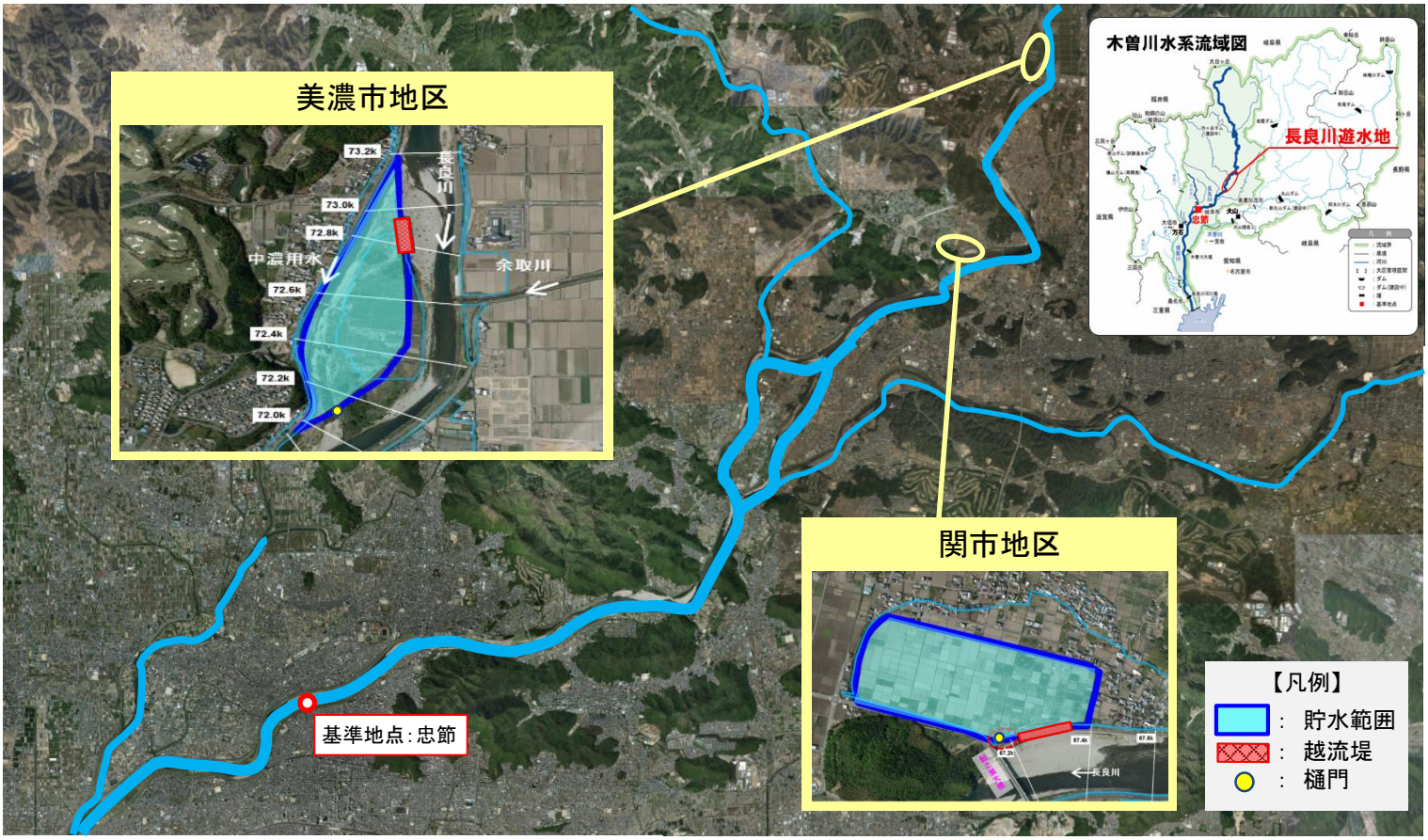
8．河川改修事業

◆ 長良川遊水地事業

長良川では、戦後最大規模の洪水に対し、遊水機能を活かした洪水調節施設として、美濃市地区は、令和3年4月、関市地区は、令和6年1月に大臣管理区間に指定して、遊水地の整備を進めています。

※木曽川水系河川整備計画（平成20年3月策定、令和2年3月変更、遊水地による洪水調節量200㎥/s）

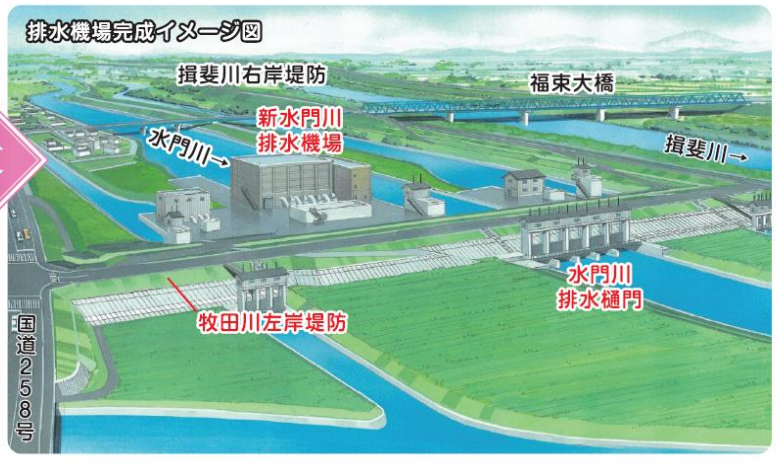


◆ 木曽川上流特定構造物改築事業（新水門川排水機場）

新水門川排水機場（国管理、昭和43年完成）、水門川排水機場（岐阜県管理、昭和25年完成）は設置から50年以上経過し、老朽化が著しくなっています。また、現況の牧田川左岸堤防の高さと厚みが十分ではありません。

このため、令和3年度より、新水門川排水機場と牧田川左岸堤防の一体的な整備に取り組んでいます。令和7年度は、樋門改築、地盤改良、水路切替、機械設備などを実施します。

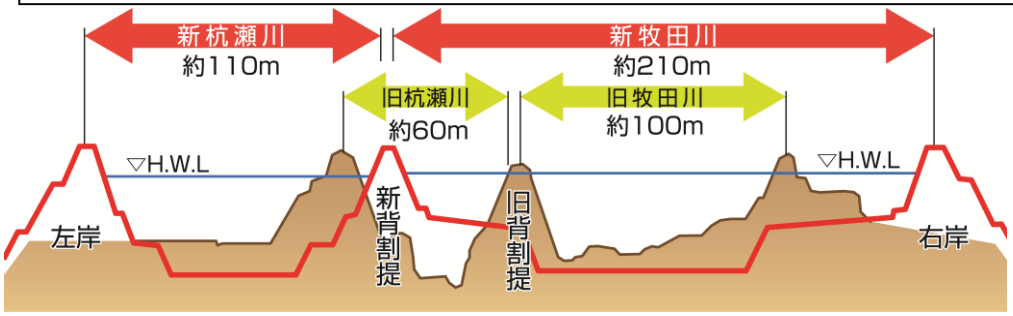
国（ぎふけん）・岐阜県が連携し、新水門川（しんすいもんがわ）排水機場と牧田川（まきたがわ）左岸堤防を一体的に整備します。



◆ 木曽川上流河川改修事業（一般改修）

平成14年7月台風6号を受け、牧田川・杭瀬川の洪水をより多く流せるよう、河川災害復旧等関連事業にて牧田川・杭瀬川の河道を広げるための築堤、河道掘削、護岸整備を実施し、平成19年度末に完成しました。

その後、牧田川下流の堤防を整備し、現在は河道掘削（旧背割堤撤去等）を実施しています。



◆ 河道の二極化対策

河道の二極化が顕在化しています

長年にわたる堤防整備や河道掘削などにより、洪水の流下能力を拡大してきた一方で、植生の繁茂等による河道の二極化が顕在化しています。

河道の二極化とは、砂州上に細かい土砂が堆積する一方で、みお筋（普段水が流れているところ）の深掘れが進み、砂州とみお筋の河床の高低差が過度に大きくなる現象です。

二極化対策の目的（目指すべき河川のすがた）

二極化の進行による悪影響を少しでも減らすため、以下を目的に、二極化の緩和に向けた取り組みを進めていきます。

【治水】

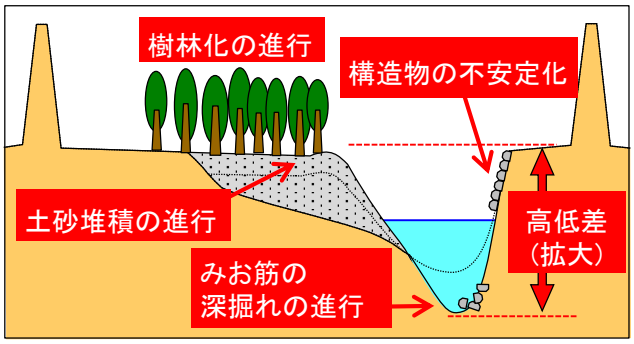
●砂州上の細粒土砂の堆積、みお筋の過度の洗掘を抑制し、洪水時の流下能力及び構造物の安定性を確保します。

【環境】

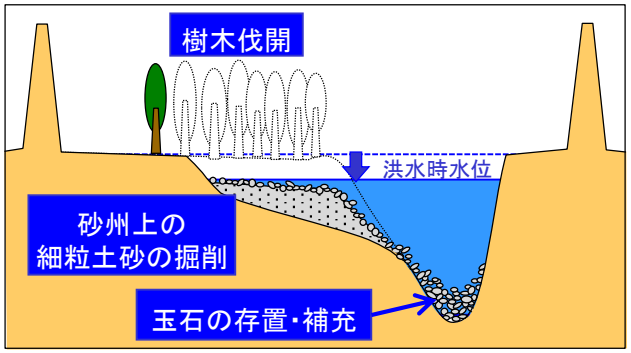
●河川が本来有している多様性に富んだ水辺環境を保全・再生します。

令和6年度の取り組み

▼二極化の進行イメージ



▼二極化対策の実施（試行）後



自然の営力を活用しつつ河川のあるべきすがたを目指します